

# ガイダンス

「アーバンデザインセンター(UDC)とは」

東京大学執行役・副学長 大学院新領域創生科学研究科教授  
一般社団法人UDCイニシアチブ代表理事

出口 敦

“アーバンデザインセンター国分寺” キックオフシンポジウム

# ガイダンス：アーバンデザインセンター(UDC)とは

- 1) “UDCアジェンダ”にみるUDC共有の基本理念
- 2) UDCの位置づけと役割
- 3) 公・民・学連携による柏の葉スマートシティと  
UDCK(柏の葉アーバンデザインセンター)の役割
- 4) 中間支援組織の今日的意味と役割

2025年12月23日

一般社団法人 UDCイニシアチブ  
代表理事 出口 敦

**都市は自らデザインするもの。**

**都市は暮らし続けるもの。**

**地域でマネジメントするもの。**

# UDCアジェンダ（UDCが共有する基本理念）

2012年のUDC会議にて採択した8か条からなる“UDCアジェンダ”は、各地のUDCが共有する基本理念です。当理念への賛同は、ネットワークへの加盟要件ともなっています。

1. 公・民・学連携の拠点となる
2. 明確な目標と戦略を打立て実行する
3. 常に具体のフィールドで活動する
4. 都市空間のデザインを担う専門家が主導する
5. 新しいアイデアに挑戦し続ける
6. 一人一人が活動をエンジョイする
7. 最新の情報を広く公開し、共有する
8. UDCネットワークを全国へ、そして世界へ

# UDCKにおけるUDCの基本的機能

## ◆「センター」の初源的意義

- 1) 活動が集まる
- 2) 人が集まる
- 3) 情報が集まる
- 4) 課題が集まる



◇センターで調整・解決

## ◆機能を支えるセンターの資源

- 1) 支援体制
- 2) 集まりやすい拠点施設
- 3) 専門家の常駐
- 4) 専用メディア

### ①プラットフォーム機能 — 企画・構想機能

- ・多主体のネットワークを活かした施策の実施体制の構築、連携誘導等
- ・関係者間の情報共有、交流促進
- ・インキュベーション、イノベーション

### ②シンクタンク機能 — 連携・推進機能

- ・構想の立案、施策の検討・提案
- ・空間デザインの提案
- ・コミュニティデザインの仕掛けづくり
- ・まちづくりに関する各種研究

### ③プロモーション機能 — 情報発信機能

- ・フォーラムやイベントの開催、展示、出版、プレスリリース等による地域プロモーション

Promoting Collaboration Projects



Social Experiment of Multi-mobility sharing



Design Review



Fostering New Community

Goal: Sustainable Development & City's Brand

# 全国各地に展開するアーバンデザインセンター（UDC）

柏の葉アーバンデザインセンター  
千葉県柏市 2006/11～

**UDCK**

Urban Design Center Kashiwanoha

新市街地型

大学都市型

スマートシティ型

大規模土地地区画整理事業にあわせて、公民学連携による空間デザイン・マネジメント、最先端技術を取り入れたスマートシティ形成に取り組む。



松山アーバンデザインセンター  
愛媛県松山市 2014/4～

**UDCM** Urban Design Center  
Matsuyama

中心市街地型

スマートシティ型

中心市街地の再生ビジョンを提示し、公共空間の再編やデザインを支援、担い手育成を行いながらその活用にも取り組む。



アーバンデザインセンターびわこ・くさつ  
滋賀県草津市 2016/10～

**UDCBK**

大学都市型

立命館大学の新しいキャンパスが立地する駅前に拠点を設け、大学と連携した様々な講座の開催やまちづくりに関わるワークショップ等を実施。



アーバンデザインセンター坂井  
福井県坂井市 2018/4～

**UDCS**  
Urban Design Center Sakai

地方都市型

町屋を改修した拠点到まちづくりに関わる情報を収集し発信。参加型プロジェクトによる担い手育成、歴史的資源の再生によるエリアの活性化等に取り組む。



信州地域デザインセンター  
長野県 2019/8～

**UDC信州**

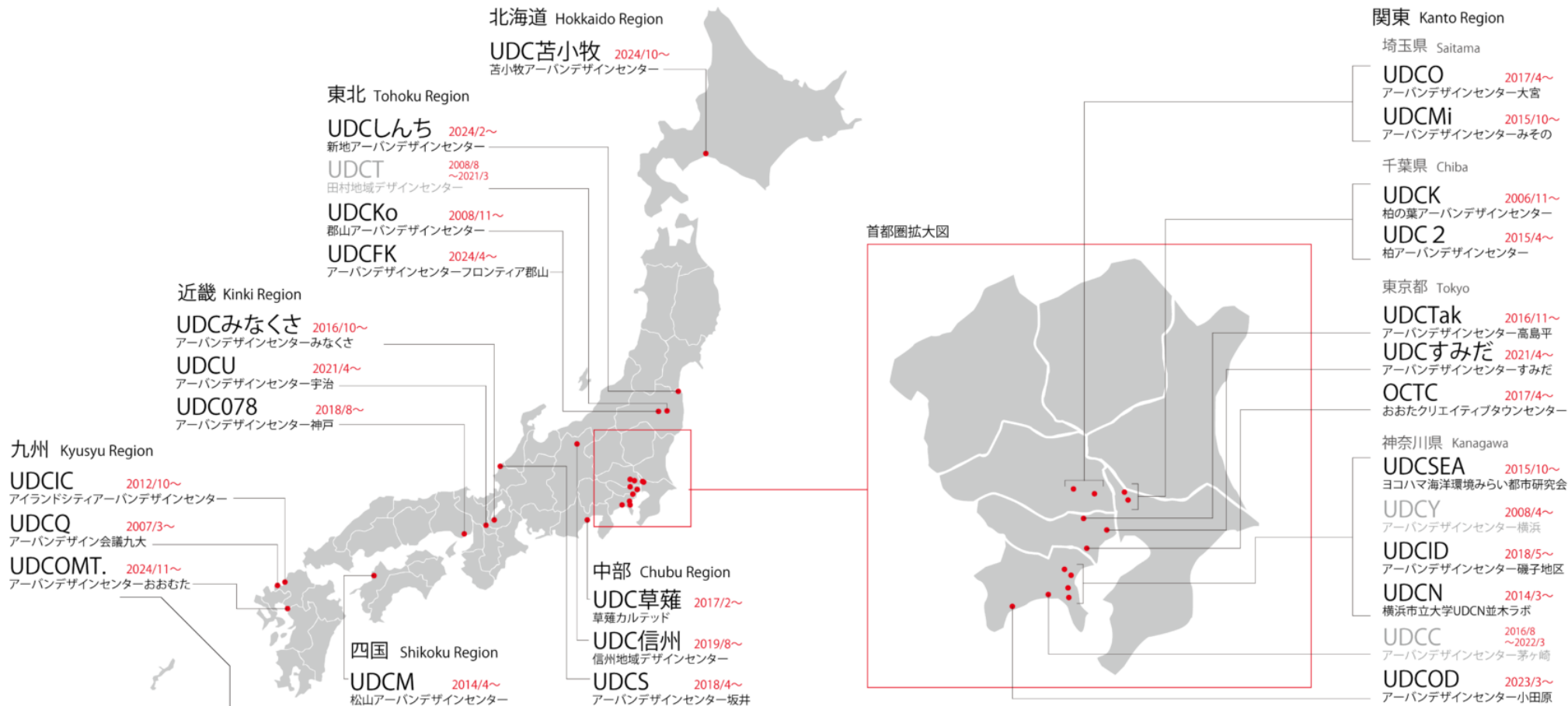
広域連携型

県の総合5カ年計画の重点施策に基づき、広域連携の支援、市町村のプロジェクトの支援、自治体職員のまちづくり人材育成、県内外への情報発信などを推進。



# 「公・民・学」連携によるUDC(アーバンデザインセンター)方式の各地への展開

まちのデザイン・マネジメントのプラットフォームとして、「公・民・学」連携の体制で、専門家が主導する拠点をづくり、地域のフィールドで活動する、といった基本理念を共有し、課題解決やビジョン創出など様々な地域のテーマに応じた取組みが進む。



参照：UDCイニシアチブHP、<https://udc-initiative.com/all-udc/>

# UDCK

Urban Design Center Kashiwa-no-ha

2006-2016

公・民・学連携拠点



都市デザイン・マネジメント拠点

# UDCKの組織体制：「産学官」から「公・民・学」連携へ

- 公・民・学の構成団体で共同運営する任意組織として設立。

各組織それぞれが、空間（施設運営費）、人（人件費）、金（活動資金）を負担し、組織運営を行う。

- UDCKとしての独自事業の実施や、法に基づく活動を行うために、2011年12月に一般社団法人UDCKを設立。

- 実務は大学教員をはじめとする専門家や行政職員が、執行役員として関わり、各プロジェクトの企画・コーディネート、マネジメントを実施。専任スタッフが常駐。



2012年「景観整備機構」に指定  
2013年「都市再生推進法人」に指定

行政・NPO

住民・市民  
民間企業

学識者・学生  
教育機関

公 × 民 × 学

構成団体 柏市 × 三井不動産・首都圏新都市鉄道 柏商工会議所・ふるさと協議会 × 東京大学・千葉大学

# 「公・民・学」連携の2つのエンジン（ビジョンと組織）

まちづくりのステークホルダー

公

民

学

共同策定・共有

共同設立・共同運営

将来ビジョン

連携・実行組織

行動指針  
実施

柏の葉  
国際キャンパスタウン  
構想

柏の葉  
アーバンデザインセンター

フォローアップ  
PDCA





# 柏の葉スマートシティをモデルとするスマートシティの進化

2006（平成18）年11月 柏の葉アーバンデザインセンター（UDCK）開設

2008（平成20）年 3月 「柏の葉国際キャンパスタウン構想」策定（千葉県、柏市、東京大学、千葉大学）

2011（平成23）年12月 内閣府「環境未来都市」「地域活性化総合特区」（柏市・東大等で申請）選定

2019（平成31）年 3月 国土交通省「スマートシティモデル事業 先行モデルプロジェクト」

（UDCK・柏市・東大・三井不動産等からなるコンソーシアムで実施）選定

【Layer III】

**Innovation**

スタートアップ・営みの増加

【Layer II】

**Urban Well-being**

居住者の満足度・幸福度の向上

【Layer I】

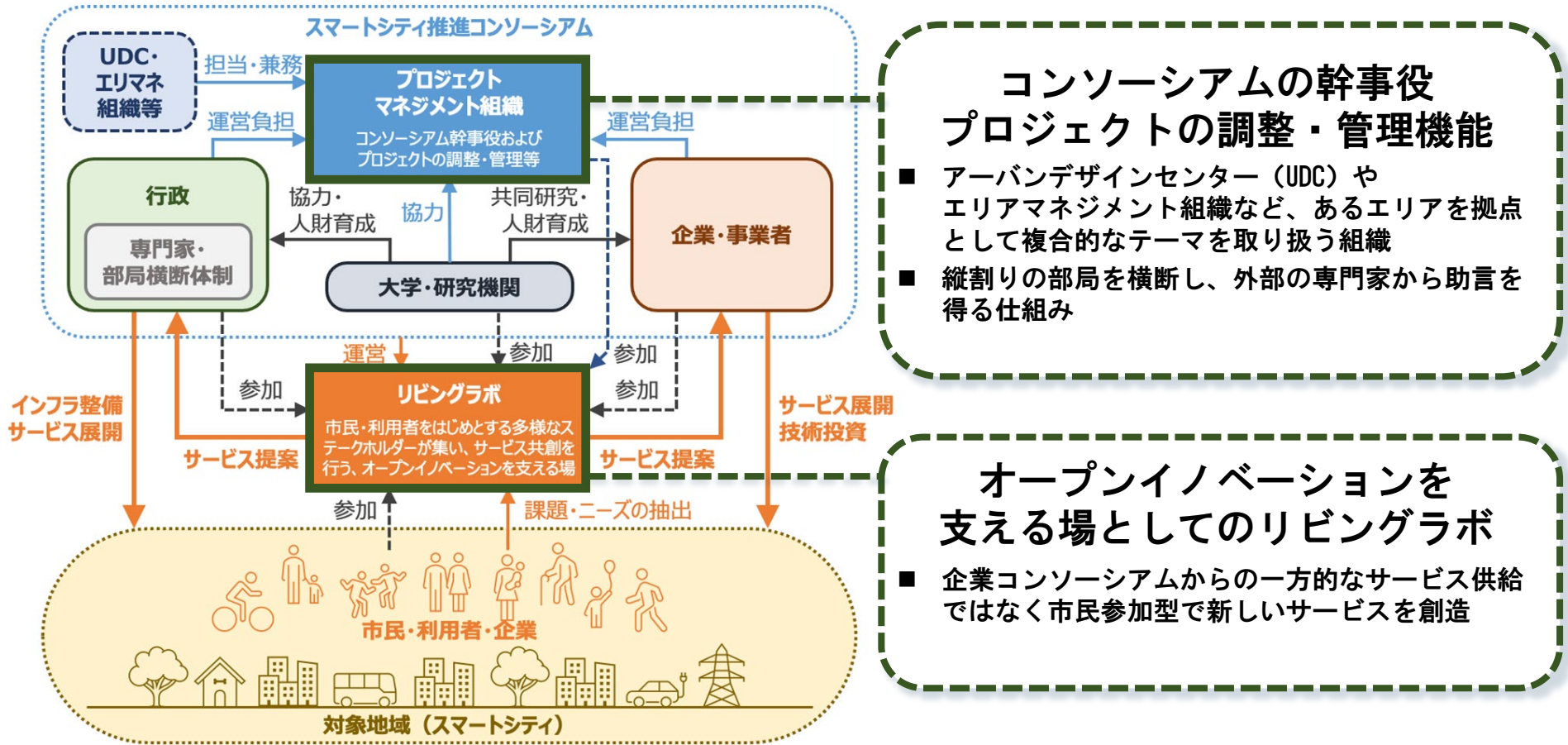
**Smart City**

魅力的な公共空間 + 高度なデジタルサービスの導入



# UDC・リビングラボをハブとする地域主体のスマートシティ組織体制

## センター組織（UDC）とリビングラボの実装



### コンソーシアムの幹事役 プロジェクトの調整・管理機能

- アーバンデザインセンター（UDC）やエリアマネジメント組織など、あるエリアを拠点として複合的なテーマを取り扱う組織
- 縦割りの部局を横断し、外部の専門家から助言を得る仕組み

### オープンイノベーションを支える場としてのリビングラボ

- 企業コンソーシアムからの一方的なサービス供給ではなく市民参加型で新しいサービスを創造

# “都市計画の理念”と“都市開発の倫理”の間に立つ 中間支援組織としての今日的意味と役割（私論）

## “長期公共価値”と“短期資本”の間に立つ“時間軸の調整装置”

アーバンデザインセンター（UDC）やエリアマネジメント団体に代表される中間支援組織は、都市計画の理念と都市開発の倫理の間に生じる実装上の空白を埋める制度的主体であるともいえる。

これらの組織は、抽象的な公共理念を日常的運営へ翻訳すると同時に、開発行為に伴う倫理的課題を現場で引き受け、継続的に調整する役割を担ってきた。

近年では、短期的な市場論理と長期的な都市公共価値の乖離が拡大する中で、これらの組織は都市の規範を実質的に維持する準公共的装置としての性格を強めている。

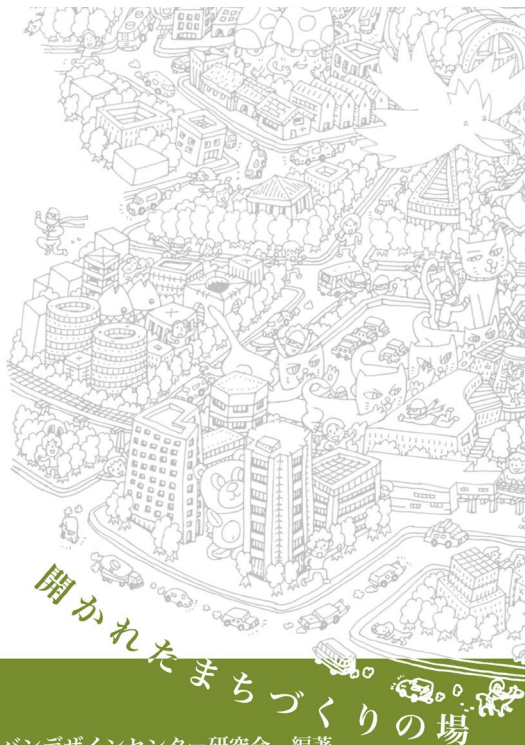
# ★参考

## 【参考webサイト】

- ・ UDCイニシアチブ <https://udc-initiative.com/>
- ・ 柏の葉アーバンデザインセンター（UDCK） <https://www.udck.jp/>
- ・ 柏の葉スマートシティ <https://www.kashiwanoha-smartcity.com/>

# アーバンデザインセンター

理工図書



アーバンデザインセンター研究会 編著

日本の都市デザインの現場を全速力で駆け抜けた東大教授北澤猛氏の夢を形にした本。死の直前まで北澤さんはアーバンデザインセンターに都市デザインの新しい可能性を見ていた。

アーバンデザインセンターは彼の志を受け継ぐ次世代専門家の熱い現場なのである。

西村 幸夫  
(東京大学教授)

## ストリートデザイン・マネジメント

公共空間を活用する  
制度・組織・プロセス

編著  
出口 敦・三浦詩乃・中野 卓  
著  
中村文彦・野原 卓・宋 俊煥  
村山頼人・泉山聖成・趙 世展  
窪田亜矢・長 聡子・志摩志寿  
小崎美希・廣瀬 健・吉田宗人

## ストリートから起こす 都市のイノベーション

国内外の成功例で解説、公共空間活用の方法論

歩行者天国、オープンカフェ、屋台、パークレット  
トランジットモール等で都市を使いこなす  
エリアマネジメントの進化、歩行者に開く空間デザイン  
公民連携の組織運営、社会実験～本格実施のプロセス

学芸出版社

# Society 5.0の アーキテクチャ

ソサエティ

人中心で持続可能なスマートシティのキーファクター

日立東大ラボ H-U Tokyo Lab.  
Hitachi and U Tokyo Joint Research



「企業と大学が  
連携して、  
グローバルアジェンダと  
地域課題に挑む」(藤井)



東大総長

対談収録  
藤井輝夫 × 東原敏昭



「プラネタリーバウンダリーの  
維持とウェルビーイング実現  
の両立にデジタル技術  
で挑む」(東原)

日立会長

日本経済新聞出版

# 国分寺市におけるUDCとは

国分寺市  
まちづくり部 まちづくり計画課 課長  
三田 俊子



# アーバンデザインセンター国分寺 について

---

2025.12

国分寺市まちづくり部

01 なぜ国分寺に

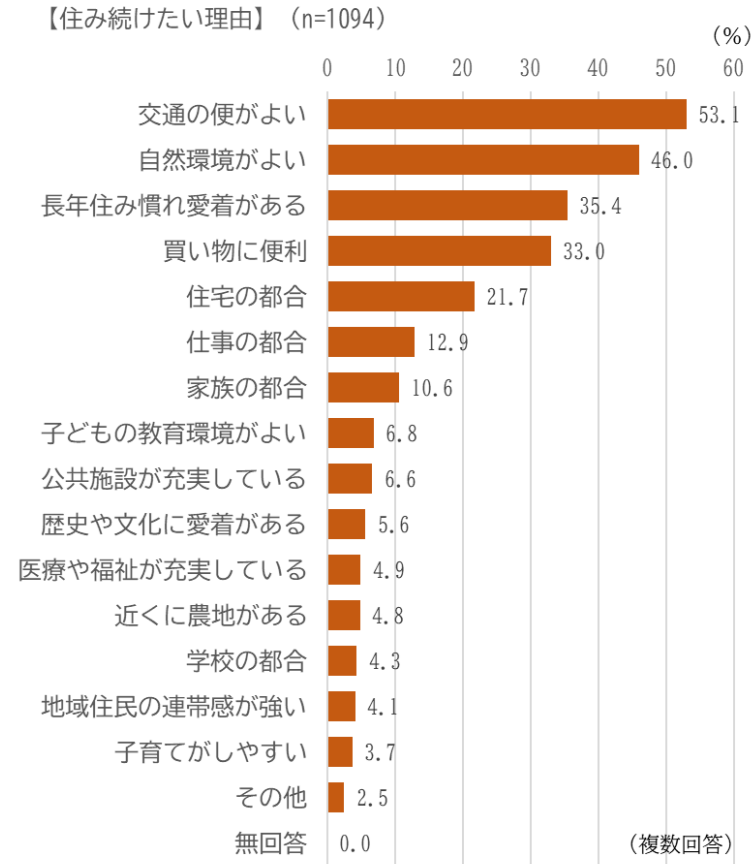
アーバンデザインセンターが必要なのか

# 1) 国分寺市の特徴と課題

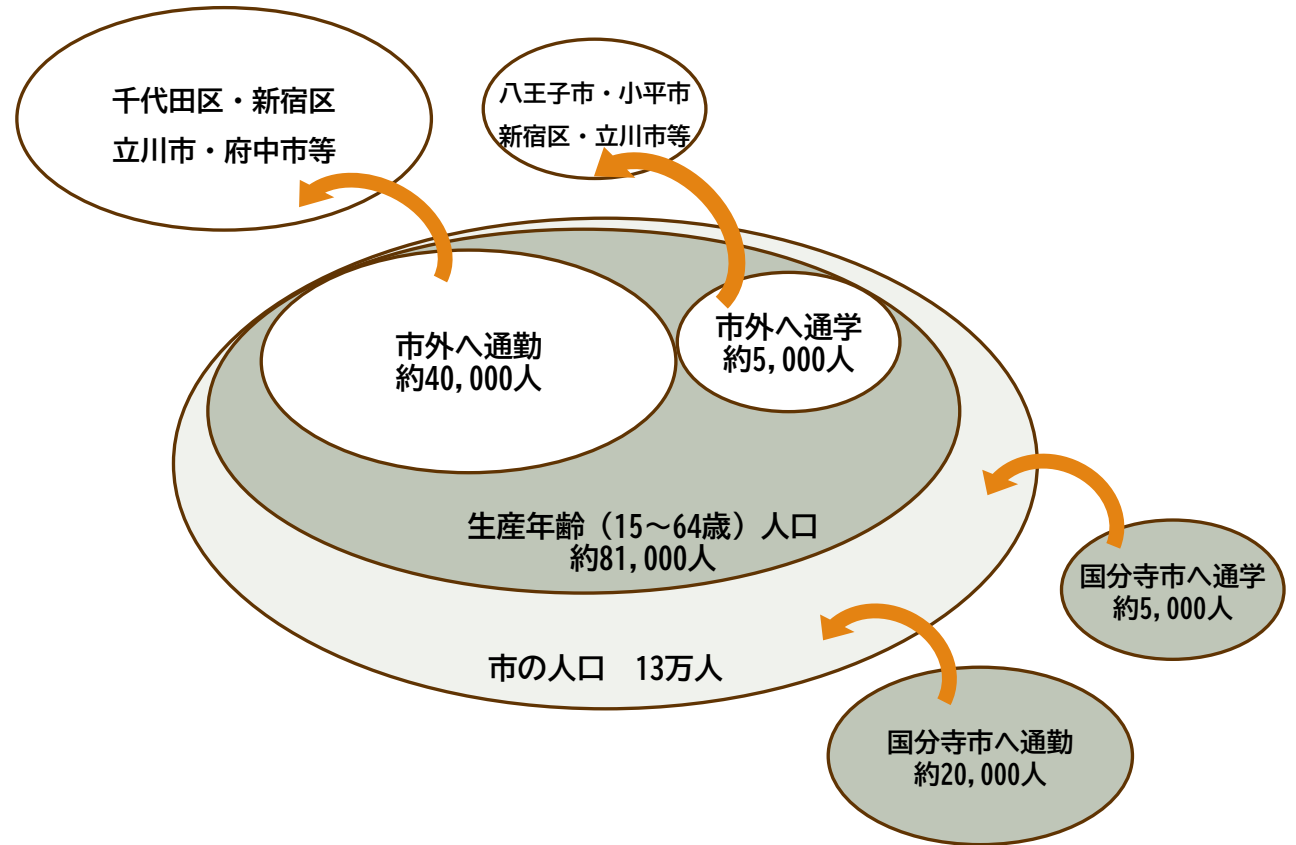
昼夜間人口比率 85.3% (参考：立川市113.2%・国立市95.4%・小平市89.0%・小金井市87.3%)  
 通勤・通学の流出者数は、約45,000人 (市の人口の1/3 生産年齢人口の1/2以上) (国勢調査)  
 民間消費の支出流出率は -27% (地域経済循環分析2018年)

課題

典型的なベッドタウン  
 (寝に帰るまち)



資料：令和7年度国分寺市民アンケート調査



資料：令和2年国勢調査

## 2) 未来はどうか？



### ベッドシナリオ

- 人口は微増傾向が継続

- 国分寺市人口が減少に転じる
- 本格的な高齢社会の到来（団塊Jr.世代の高齢化）

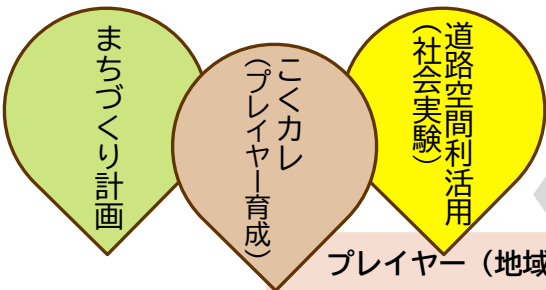


- 条件（通勤時間と家賃のバランス）で選ばれるまち
- 消費・余暇活動は市外（所得の約3割が市外へ流出）
- 住民同士・住民と地域との繋がりの希薄化
- 受益者（市民）／サービス提供者（自治会・商店会・行政）  
提供者のリソースが不足

- 東京・新宿の求心力次第で国分寺の価値低下
- 同じ通勤圏の都市（大宮・柏・川崎等）との価格競争
- 地域にお金が循環しない構造のまま人口減少
- 地域との繋がりが希薄なまま団塊Jr.世代が定年を迎える
- 自治会・商店会・行政などで担うサービス崩壊の危機

### 3) 未来をどうしたい？

## グッドシナリオ



それぞれが繋がらない…志縁と地縁をもっと繋げたい…

プレイヤー (地域と繋がりたい・役に立ちたい人) 多数発掘



現在 ベッドタウン (寝に帰るまち)

2040年

(暮らすまち) リビングタウン 未来

#### アーバンデザインセンター事業

- ★市民参画による計画策定支援・情報発信
- ★プレイヤーの育成・地域と繋ぐ中間支援  
次世代のまちづくり教育
- ★都市空間を活用した社会実験及び実装支援

将来像の共有→プレイヤー+地域→社会実験→実装  
までを繋ぐシンクタンク

- ◎市民が地域と繋がり、受益者からプレイヤーに変化
- ◎地域と繋がる (暮らす) ことで得られる満足感・自己効力感
- ◎面識経済 (ローカルエコノミー) が循環  
人口が減っても地域にお金循環する構造に
- ◎良いスパイラルによる経済や都市の変化の見える化
- ◎ローカル (地域と人・活動) の魅力で選ばれるまちに

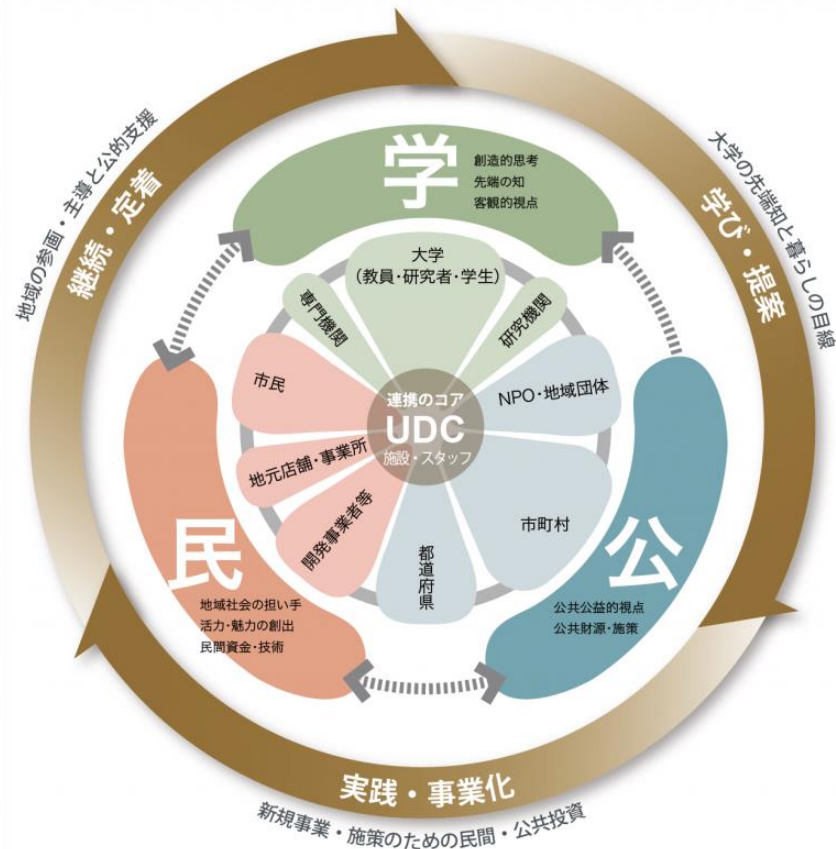
## 02 アーバンデザインセンター国分寺の 目指すもの

ベッドタウン から リビングタウン（暮らすまち）へ

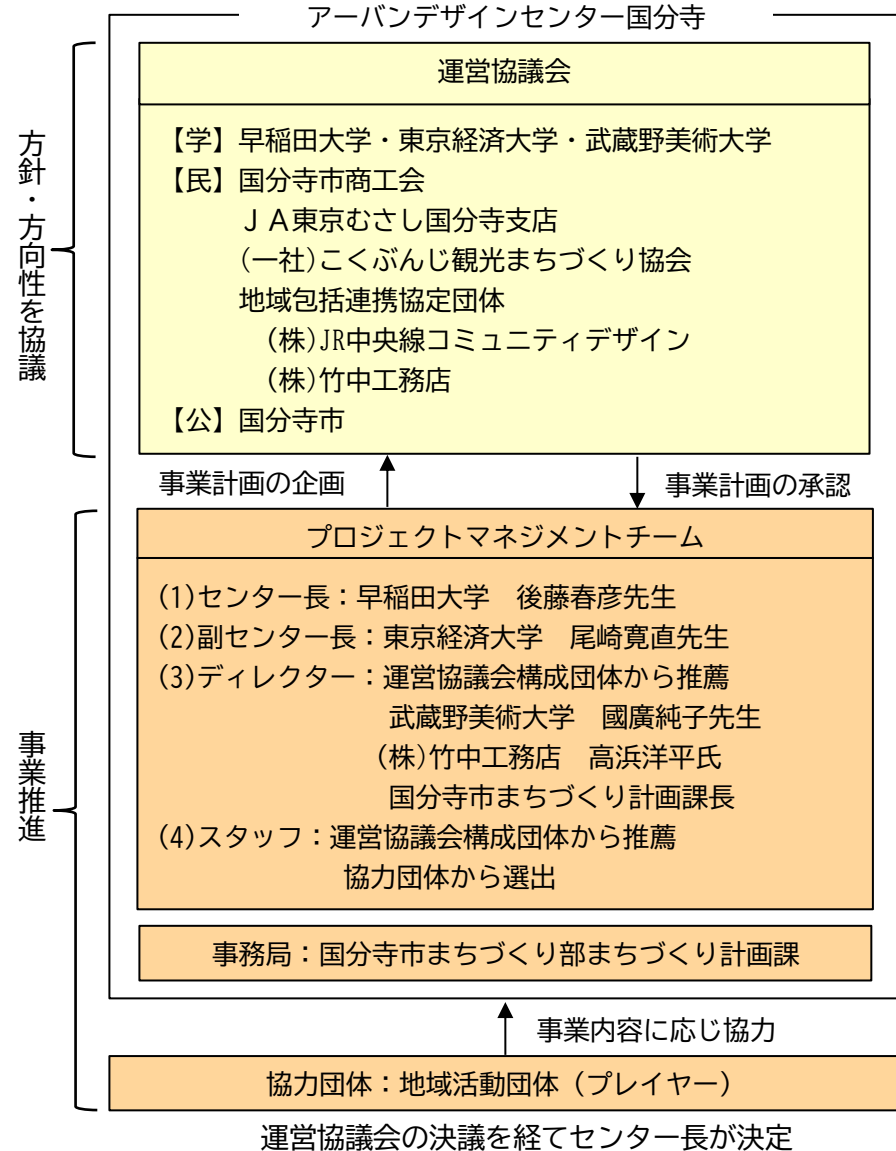
# 1) アーバンデザインセンター国分寺の事業（案）

取組	描く 	育む・繋ぐ 	実験・実装 
	市民参画による計画策定支援 情報発信	プレイヤーの育成・地域と繋ぐ中間支援 次世代のまちづくり教育	都市空間を活用した社会実験及び実装支援
事業（案）	短期 グランドデザイン等策定支援事業 農の風景育成計画検討支援事業	こくぶんじカレッジ（継続）	西国分寺駅東地区公共空間利活用実証実験 （継続）
	中期 グランドデザインの実現に向けた取組 まちの変化の情報発信	次世代まちづくり教育・環境教育支援	国分寺駅北口駅前通り実証実験 市立公園の管理及び利活用 農の風景育成地区の利活用支援事業
	長期	チャレンジショップ運営	エリアマネジメント事業
	イメージ  ↑環境基本計画市民ワークショップ ←ユースボイスカシワ（UDC2）	 ↑こくぶんじカレッジ	 ↑東山道テラス社会実験 ←ストリートパーティ（UDC2）

## 2) アーバンデザインセンター国分寺の組織 (案)



UDCイニシアチブ ホームページより引用



# 活動紹介

ぶんぶんウォーク実行委員会 事務局

矢野 夏樹

# ぶんぶんウォーク

## 国分寺の魅力再発見！

市内約 **100** カ所で約 **200** の企画

ぶんぶんウォークは、まちをぶらぶら歩きながら、国分寺の魅力再発見するイベントです。期間中、大小200を超える様々な企画が盛りだくさん！イベントに参加したり、ぶらぶら歩いて途中のカフェやお店に立ち寄ったりしながら国分寺の“まち”を満喫してみませんか？今年もこの“まち”の様々なところに、多くの方の足あとがつけられることを期待します！



# ぶんぶんウォーク 2025

concept

## 自分の足でお気に入りのを見つけよう

今年で15年目を迎えるぶんぶんウォーク。  
まち歩きを通して地域の魅力を再発見するイベントとして親しまれてきましたが、  
今年「新しい体制」で企画・運営してきました。

まちの若い新メンバーを迎え、これまでの魅力を大切にしながらも  
「まちでの新しいつながり」を生み出すため、  
たくさんのアイデアをカタチにしてきました。

# 活動紹介

こくフェス実行委員会 会長

冬木 義郎



Music Days 2026  
**こくフェス**♪  
E環境で、E音楽を!



2022年 23会場  
16400人



2023年 30会場  
16900人



2024年 31会場  
16500人



2025年 38会場  
14500人(雨天 一部会場中止)



# 活動紹介

特定非営利活動法人NPO birth事務局長

佐藤 留美



## 公園緑地を核としたまちづくり NPO birth

### 《主な経歴》

- 1997年 設立
- 1999年 環境省との協働事業
- 2002年 日米国際交流事業
- 2005年 「愛・地球博」出展
- 2006年 公園緑地の指定管理事業開始  
～都立・市立公園
- 2023年 PFI事業開始

- ▷受賞多数（都市公園コンクール、グリーンインフラ大賞）
- ▷自治体、企業、各種団体とのコラボ事業多数

## 「みどりのまちづくり」を实践



私たち  
専門スタッフが  
サポート  
します！

## みどりの中間支援組織 NPO birthの主な事業

### ▶パーク&エリアマネジメント



地域プレイヤーとのマルシェ企画

### ▶コミュニティビルディング



市民とつくるコミュニティガーデン

### ▶環境教育・人財育成



チームで学び合い、仲間をつくる

### ▶エコロジカルマネジメント



みどりをつなぐネットワークづくり



パークコーディネーター



エコロジカルマネージャー



パークレンジャー

2011～  
都立武蔵国分寺公園  
指定管理者

山崎パークレンジャー



みどりのまちづくりを  
パートナーシップで推進！



うくフェス



坂本パークコーディネーター



公園内の野川源流

ばったランド



ちよいボラ

# 活動紹介

株式会社JR中央線コミュニティデザイン  
新領域創造本部 地域活性化部 部長

矢島 陽介

# 西国分寺駅50周年記念駅前フェスティバル(2023年9月)



# 西国分寺ビアフェスタ(2024年5月)

街中縁日(2024年10月)



にしこくおみやげプロジェクト(2024年12月~)



# 活動紹介

株式会社竹中工務店  
まちづくり戦略室 副部長  
高浜 洋平

# 「地域活性化包括連携協定」協定(2024年4月18日)の趣旨

- 背景
  - ・市庁舎完成により、泉町の都有地開発は全て完了し、まちびらきを迎える。
  - ・市に豊富に存在する緑・水・公園・道路等の公共公益空間を含め、まちを活用、運用していくステージへ
- 目的
  - ・公共公益空間(緑、水辺、公園・道路、文化財等)を活用することによるまちの価値向上
  - ・大学等の教育拠点が豊富で、市民活動も活発な国分寺市において、公民学連携の仕組みをつくり、まちづくりの推進を図る
- 国分寺市と(株)竹中工務店、相互連携によるWin-Winの関係



・都心郊外の街づくり先導モデルを示し「住む街」「働く街」「商う街」の地域の魅力を発信

・地域の市民、企業、学校との協働による公民学まちづくりの推進の仕組みをつくることで、持続可能な地域・社会の形成を目指す

都心郊外地域の課題解決手法の研究・実践

①公共空間活用(道路、水辺、公園)等ノウハウの研究・実践

②健康建築、グリーンインフラまちづくりや公民学連携まちづくりのノウハウ蓄積

# 公共空間活用まちづくり(道路・水辺・公園・文化財等)

## パブリック空間を豊かにすることによるまちづくり

都市の中にある道路、水辺、公園等のパブリック空間を、賢く活用することで、まちに表情ができ、人が集まり、豊かになります。国分寺市は、都内でも有数のグリーンインフラである全長20kmの国分寺崖線の始まりであり、名水百選の湧水が湧き、パブリック空間が豊富な街。公民学で、パブリック空間活用等のノウハウを結集し、まちの価値創造を行います。

### 道路活用 (ほこみち)



### 水辺活用 (ミズベリング)



### 公園活用 (パークPFI)

